

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2011年冬)の結果

当センターでは、2011年冬のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

<ボーナス予想額 >

47.7万円(前年冬比、15,000円減少(△3.0%))

今冬のボーナス予想額は47.7万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を15,000円下回る結果となった。減少率は△3.0%で昨冬(△4.7%)よりやや改善するも、厳しさは続いている。冬のボーナスとしては、07年冬以降5季連続の前年実績割れとなった。しかし、過去ワースト2位(1位は02年冬の△6.6%)の記録であった09年冬の△6.1%に比べ、今冬は前年割れの水面下の状況下ではあるが、昨冬に続き2年連続で回復の足取りを示した。

国内の景気は回復局面に入っているとされているが、東日本大震災の発生による先行き不安や、円高、世界経済の減速などから不透明感が増している。当センターの調査は、県内の給与所得者を対象とした「ボーナスと暮らし向き調査」であるが、全般的に生活の防衛を中心としたやりくりを反映した結果が窺える。

<暮らし向き:「収入」および「消費支出」>

直近半年間の暮らし向きは「収入」面で若干の増加が見られ、「消費支出」は昨冬の調査結果に比べ少し伸びていることが見てとれる。

直近半年間の暮らし向きは、「収入」において昨冬の調査に比べ、「増えた」が9.1%(昨冬8.2%)で0.9ポイント増加し、「減った」の回答は26.0%(昨冬28.0%)と2.0ポイント減少し、全体としては、若干ながら向上している。

一方、「消費支出」においては、「増やした」は18.2%(昨冬17.8%)で0.4ポイント増加し、「減らした」は23.8%(昨冬25.6%)で1.8ポイント減少し、ともに家計消費は少し伸びている。

先行き(今後半年間)の見通しは、「収入」は現状より「増えそう」が9.0%(昨冬4.3%)で4.7ポイント増加し、「減りそう」が28.1%(昨冬31.5%)で3.4ポイント減少する見込みである。

「消費支出」では、「増やす」は9.0%(昨冬8.1%)で0.9ポイントの増加、「減らす」は39.1%(昨冬38.9%)で0.2ポイント増加するという回答となった。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は7.6%(昨冬8.8%)と昨冬比1.2ポイント減少し、「減りそう」は28.6%(昨冬29.0%)で昨冬比0.4ポイント減少する。また、「変わらない」が63.8%(昨冬62.2%)と1.6ポイント増加し、全体としては依然として厳しい状況が続いている。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.1%、「ゆうちょ貯金」7.4%、「社内預金」7.2%の順となっている。この順位は昨冬と同じである。また、この3項目で全体の98.7%(昨冬96.2%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の0.2%(昨冬2.5%)であり、リスクの伴う金融商品は、低調である。

▽貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位の「住宅関連資金」となった。

▽購入希望上位5品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「子供服」、「くつ」、5位「家具インテリア」となった。昨冬1位だったテレビは今冬では上位10品目に入らず11位に下がった。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は7.6%（昨冬8.8%）で昨冬比1.2ポイント低くなり、「減りそう」は28.6%（昨冬29.0%）で昨冬比0.4ポイント良化する。また、「変わらない」が63.8%（昨冬62.2%）と1.6ポイント増加し、全体としては、厳しい状況であることが窺える。

この冬のボーナスは、昨冬に比べて、「増えそう」は7.6%、「減りそう」は28.6%、「変わらない」が63.8%となった。「増えそう」（昨冬8.8%）が昨冬より1.2ポイント低下した。「減りそう」（昨冬29.0%）は0.4ポイントと僅かながら改善した。

また、「変わらない」（昨冬62.2%）は1.6ポイント増加し、「増えそう」から「変わらない」へのシフトが見られる。

また、今冬の「増えそう」と「減りそう」との差（「増えそう」－「減りそう」）は△21.0ポイント（昨冬△20.2ポイント）と、マイナス幅は0.8ポイント拡大し、昨冬より悪化している（図表-1、図表-2）。

年齢階層別にみると、「増えそう」は「30歳未満」が16.7%と他の階層に比べて高い。しかし、4年前の07年冬（32.6%）の約半分で、「増えそう」の実感には「30歳未満」でも、まだまだ乏しい。

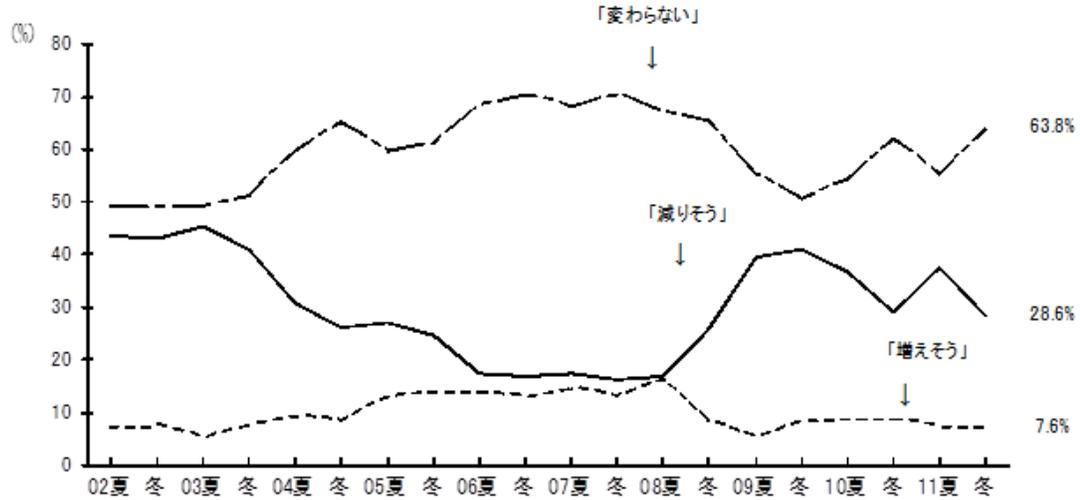
「増えそう」の年齢階層別の特色として、30歳代の割合が一番低く、続いて50歳以上となっている。一方、「減りそう」では、若い世代の30歳未満が6.4ポイント、30歳代が4.0ポイントそれぞれ増加し、中高年の40歳代で3.1ポイント、50歳以上で7.3ポイントそれぞれ減少する傾向にある。

なお、ボーナス予定日は、12月上旬が52.4%、中旬27.0%、下旬11.3%、不明9.4%で、約半数が12月上旬を予定している。

	「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	09冬 8.4	40.9	50.7
	10冬 8.8	29.0	62.2
	11冬 7.6	28.6	63.8
30歳未満	09冬 16.1	28.2	55.7
	10冬 21.3	13.8	64.9
	11冬 16.7	20.2	63.1
30歳代	09冬 10.9	36.4	52.7
	10冬 8.5	26.8	64.6
	11冬 4.6	30.8	64.6
40歳代	09冬 3.2	48.1	48.7
	10冬 6.8	32.8	60.5
	11冬 6.9	29.7	63.4
50歳以上	09冬 5.8	47.4	46.8
	10冬 3.1	37.4	59.5
	11冬 5.9	30.1	64.0

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

今冬のボーナス予想額は47.7万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を15,000円下回る結果となった。減少率は△3.0%で昨冬(△4.7%)よりやや改善するも、厳しさは続いている。

ボーナスの予想額(回答者の平均、税引き後の受取額)は47.7万円で、前年冬比15,000円の減少となった。減少率は△3.0%で昨冬(△4.7%)より改善する結果となった。冬のボーナスとしては07年冬以降、5年連続の前年割れである。国内の景気は一昨年の春先を底に上昇に転じているとされているが、本調査で見ると、その実感は乏しい。しかし、今夏、今冬と2季連続でボーナス受取額が回復の足取りを示しており、景気は底を脱し、上向きに転じる兆しは感じられる(図表-3、図表-4)。

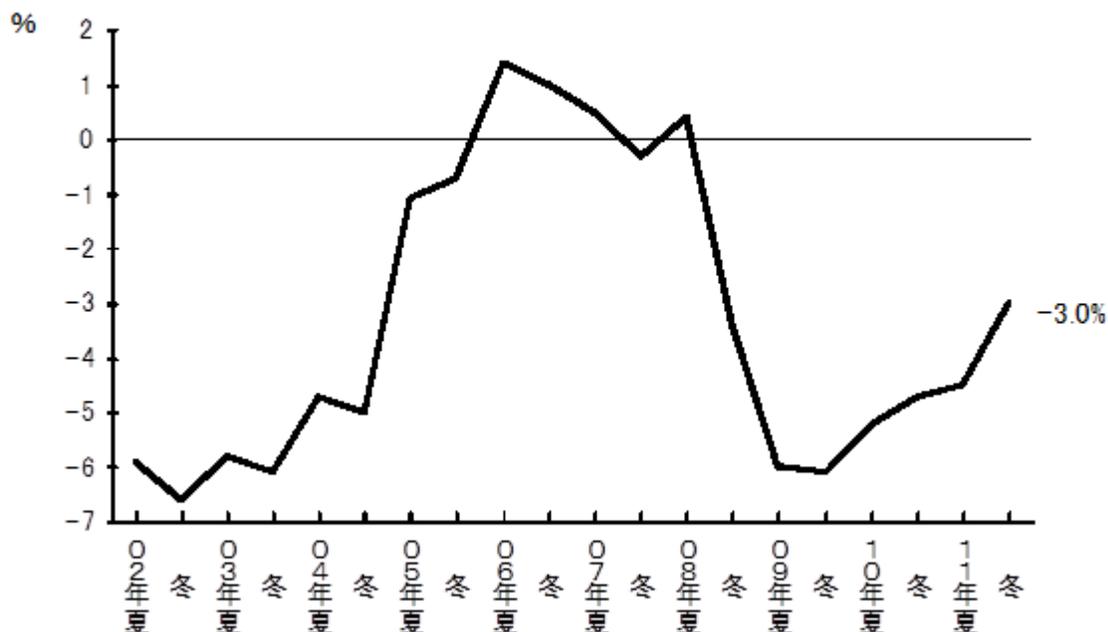
今冬の調査では年齢階層別に見ると、「30歳未満」のみが、前年を上回る受取額を予想しているが、他の年齢層では前年実績を上回ることができなかった。

また、勤務地別では受取額は都内勤務者、伸び率では県内勤務者が優位となっている。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年冬、%)
平均		47.7	△3.0
30歳未満		31.3	3.0
30歳代		37.8	△8.7
40歳代		55.0	△2.5
50歳以上		60.7	△2.7
勤務	県内	44.8	△2.8
地別	東京	71.3	△4.2

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(39.3%)、2位「ローン等の返済」(14.0%)、3位「教育・教養」(10.9%)で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順となっている(図表-5,図表-6)。

1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」の順位は毎季変わらず、配分割合も両方で受取額全体の半分位を占めている。従って、実質的に消費に回るボーナスは全体の半分以下になると思われる。

既婚・独身、男・女別でみると、既婚・独身、男・女を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身女性は貯蓄志向が高く62.6%を貯蓄に回すとしている。

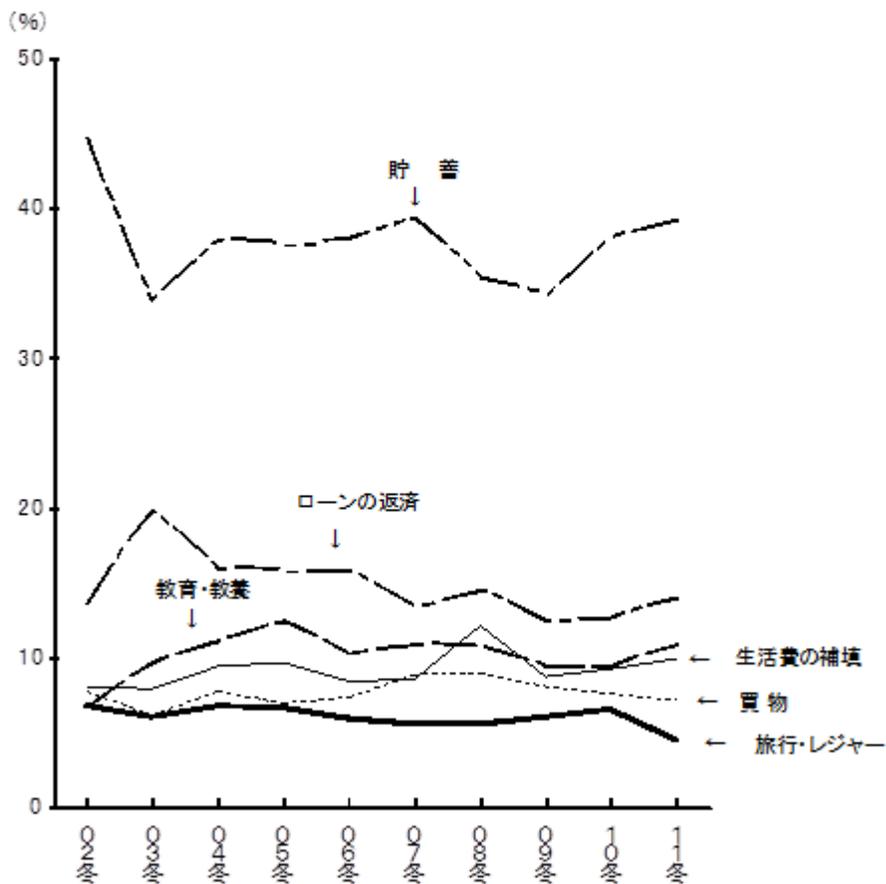
独身者は既婚者に比べて「貯蓄」が高く、次に「買い物」のウェイトが高い。既婚者は独身者に比べ

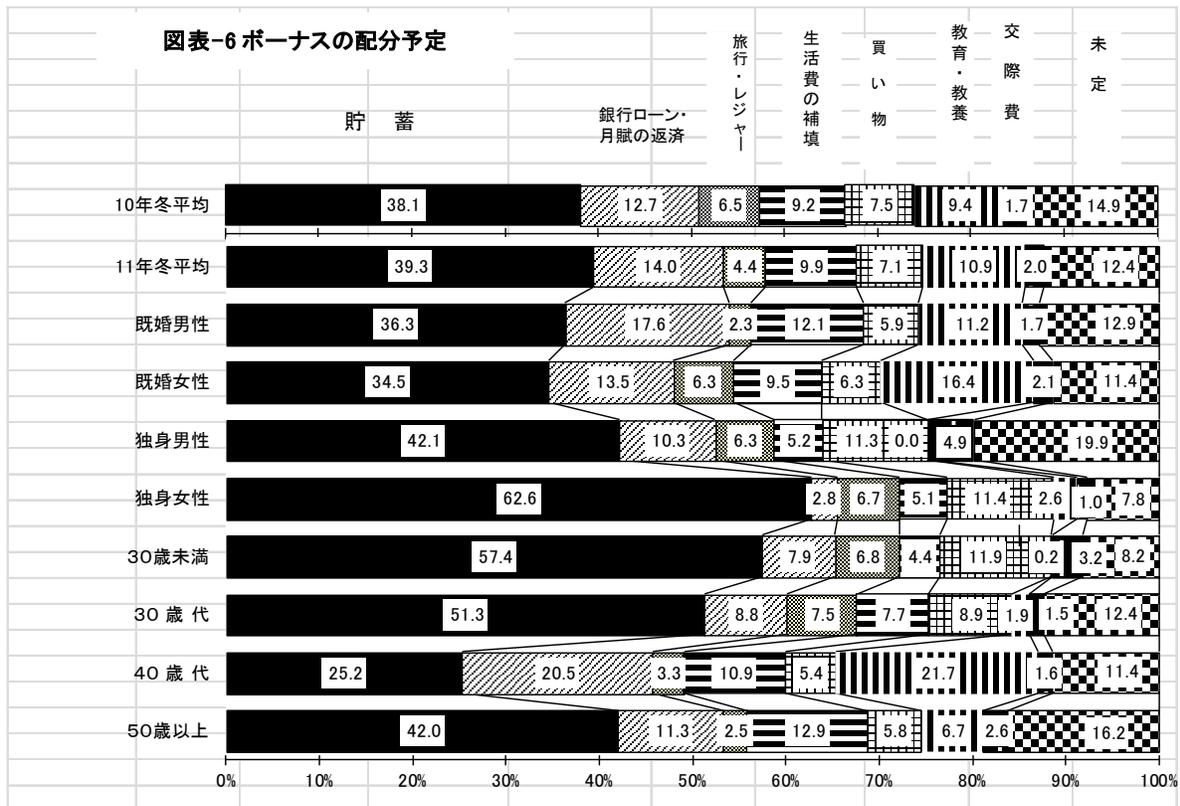
て「ローン等の返済」、「教育・教養」が高い割合を占め、独身・既婚それぞれの特徴を表わしている。

年齢別で見ても、全年齢層において配分の一番は「貯蓄」である。なかでも30歳未満は貯蓄志向が高く57.4%を貯蓄に回すとしている。

貯蓄以外の項目では、30歳未満の年齢層が「買い物」に、40歳代は「教育・教養」、「ローン等の返済」に、50歳以上は「生活費の補填」の割合が、それぞれ他の年齢層に比べ高くなっている。

図表-5 ボーナスの配分予定の推移





4 貯蓄の内訳

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.1%、「ゆうちょ貯金」7.4%、「社内預金」7.2%の順となっている。この順位は昨冬と同じである。また、この3項目で全体の98.7%(昨冬96.2%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の0.2%(昨冬2.5%)であり、リスクの伴う金融商品は、依然として低調である。

貯蓄の内訳は、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.1%、「ゆうちょ貯金」7.4%、「社内預金」7.2%の順となっている。今冬においては「ゆうちょ貯金」と「社内預金」との差がほとんどなくなった。

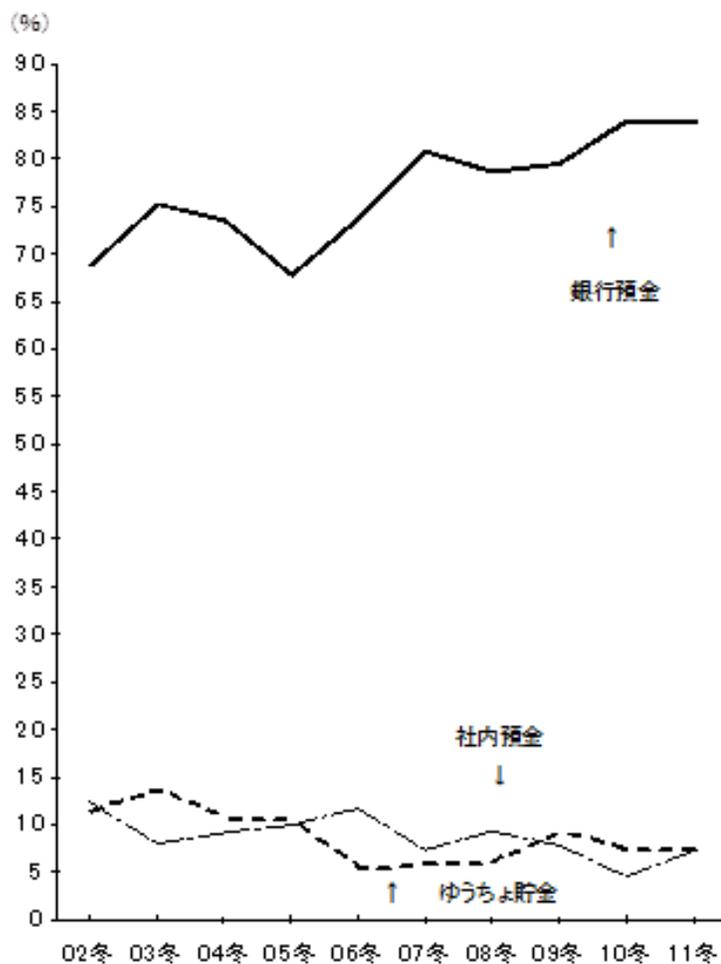
例年と変わらず、ボーナスの貯蓄は預貯金が中心で、この3項目で全体の98.7%(昨冬96.2%)を占めている(図表-7,図表-8)。

預貯金以外の金融商品としての「投信・株式」は全体の0.2% (昨冬2.5%) とリスクの伴う金融商品は全くと言っていいほど低調である。

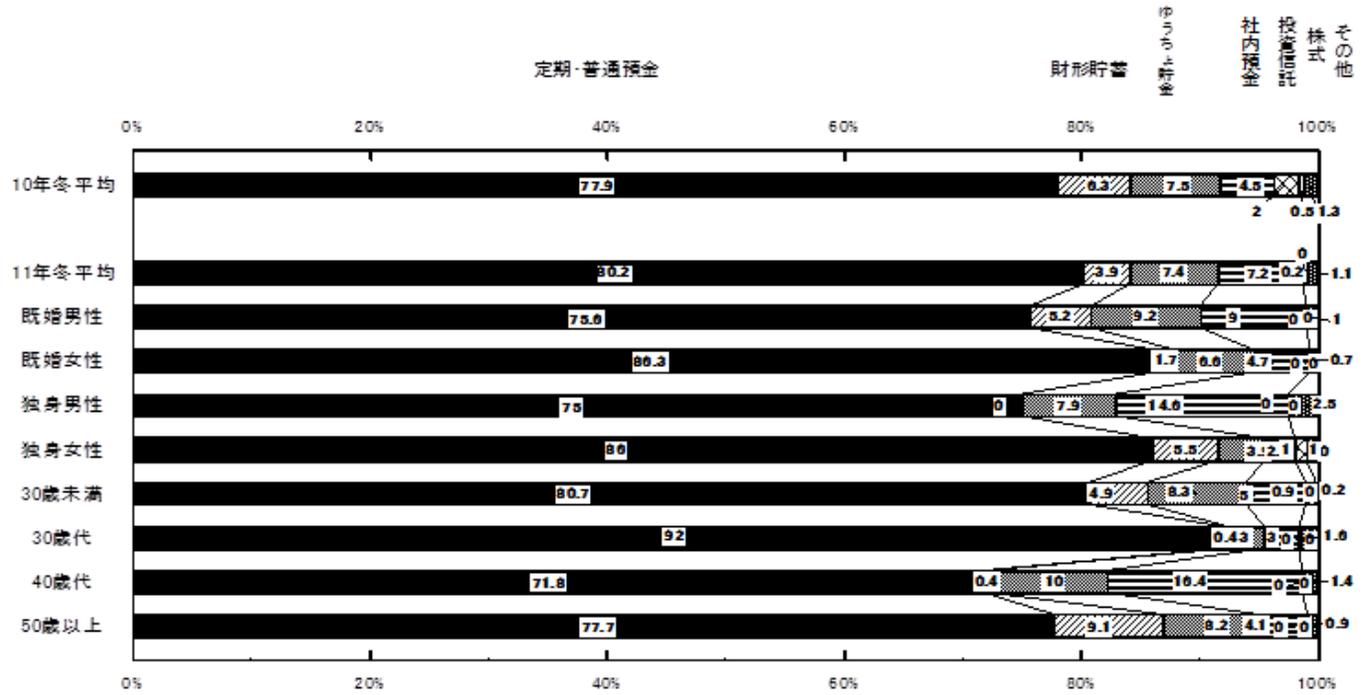
貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別でも、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。銀行預金以外では、「ゆうちょ貯金」は既婚男性(9.2%)、「社内預金」は独身男性(14.6%)と関心を寄っているが、「投信・株式」はほとんど関心を寄っていない。

年齢別でも、各年齢層で「銀行預金」が一番高い。銀行預金以外では、「ゆうちょ貯金」は40歳代(10.0%)、50歳以上(8.2%)、「社内預金」は40歳代(16.4%)に支持されている。

図表-7 貯蓄の内訳推移



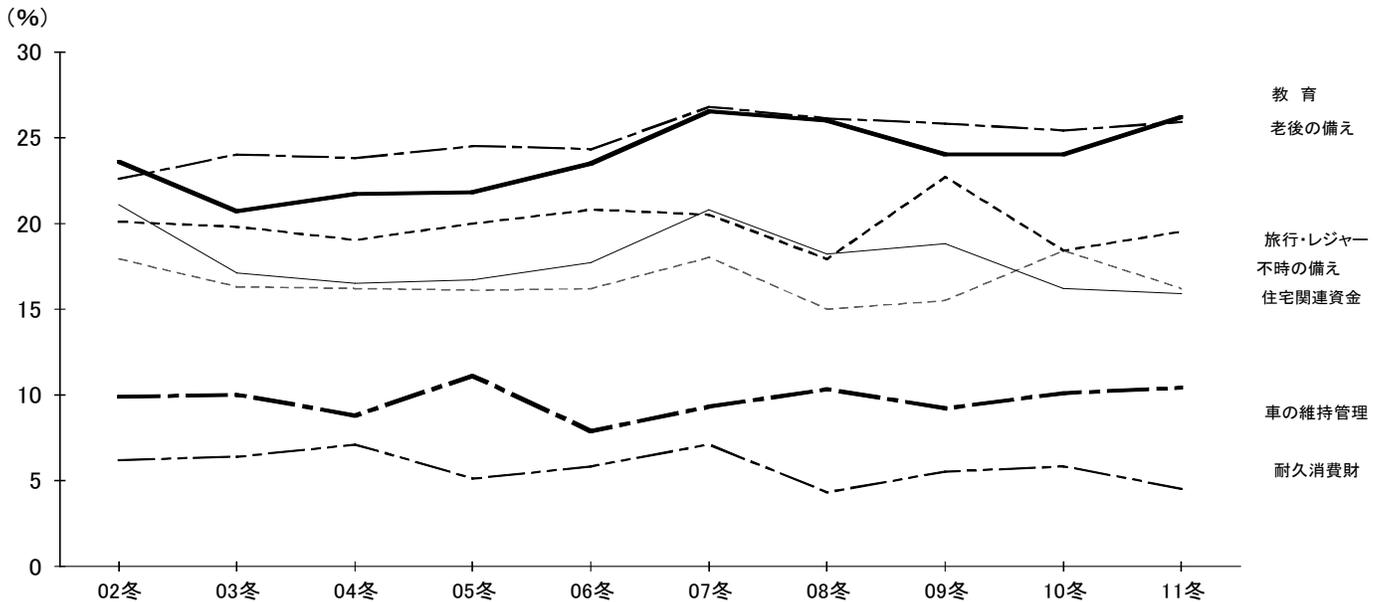
図表—8貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」となった。

図表—9 貯蓄の目的の推移

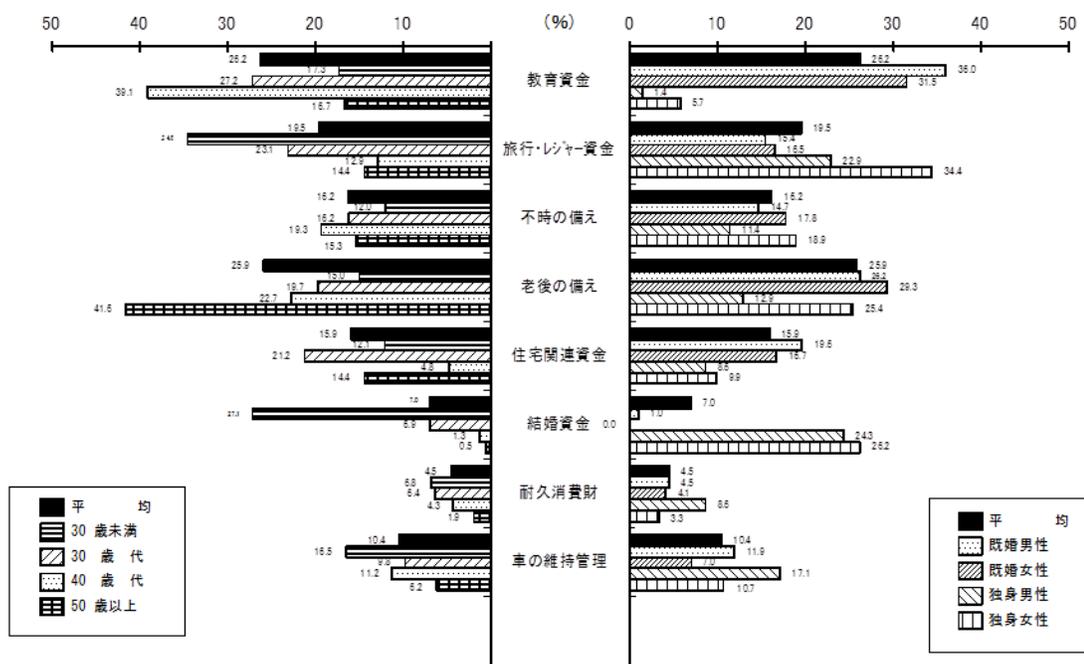


貯蓄の目的(複数回答)は、1位「教育資金」26.2%に続き、2位「老後の備え」25.9%、3位「旅行・レジャー」19.5%、4位「不時の備え」16.2%、5位「住宅関連資金」15.9%となった。以下「車の維持管理」、「耐久消費財」の順である(図表-9)。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(34.6%)、30歳代・40歳代は「教育資金」(27.2%・39.1%)、50歳以上は「老後の備え」(41.6%)が他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの相違が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚者は「教育資金」(男性の36.0%、女性の31.5%)、独身男性は「結婚資金」(24.3%)、独身女性は「旅行・レジャー」(34.4%)を、それぞれ貯蓄目的としてトップに上げており、いずれも他階層に比べ大きなウェイトを占めている(図表-10)。

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望品目

購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「子供服・くつ」が上位を占めた。昨冬1位だったテレビは、今冬では上位10品目に入らず11位に下がった。その他5位「家具インテリア」、6位「パソコン」、7位「鞆・ハンドバッグ」、8位「電話・携帯電話機」、9位「化粧品」、10位「カメラ・デジタルカメラ」となった。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)上位は、「婦人服」(16.2%)、「紳士服」(11.2%)の順である(図表-11)。

既婚・独身、男・女別では、女性は既婚・独身を問わず、「婦人服」を買いたいもの1位にあげている。男性では既婚・独身男性とも「紳士服」が1位である。その他の特徴として、昨冬1位だったテレビが今冬では、上位10品目にも入らず、11位にランクづけされたことである。これは昨年の地上波対応テレビの買い替え需要が一巡したことによるものと思われる。

図表-11 購入希望主要品目

(複数回答、単位:%)

全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	09冬	10冬	今冬				
婦 人 服	15.9	14.3	16.2	紳 士 服	15.0	婦 人 服	16.7
紳 士 服	9.0	10.1	11.2	婦 人 服	10.5	子 供 服	9.6
子 供 服	7.2	6.8	8.0	子 供 服	10.5	家 具 インテリア	8.5
靴	7.9	7.3	8.0	パ ソ コ ン	7.7	紳 士 服	6.7
家 具 ・ インテリア	6.3	6.9	6.1	電 話 ・ 携 帯 電 話 機	5.6	靴	4.8
パ ソ コ ン	5.6	6.2	5.6				
靴 ・ ハ ン ト ・ ハ ッ ク	6.4	5.0	5.5	独 身 男 性		独 身 女 性	
電 話 ・ 携 帯 電 話 機	2.2	2.4	4.1	紳 士 服	32.9	婦 人 服	37.7
化 粧 品	3.1	3.2	3.9	靴	12.9	靴 ・ ハ ン ト ・ ハ ッ ク	20.5
デ ジ ャ ル カ メ ラ ・ ビ デ オ	4.4	4.1	3.2	パ ソ コ ン	10.0	靴	19.7
				カ ー 用 品	8.6	化 粧 品	15.6
				ス ポ ー ツ 用 品	8.6	宝 石 ・ 貴 金 属	4.9

7 暮らし向きについて

直近半年間の暮らし向きは「収入」面では若干の増加。「消費支出」は、昨冬の調査結果に比べ若干拡大している。収入が少し増加する中で、消費支出も若干伸びていることが見てとれる。

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答割合は9.1%(昨冬8.2%)で、0.9ポイント増加。また、「減った」が26.0%(昨冬28.0%)で2.0ポイント改善している(図表-12)。

半年後の先行きについても、「増えそう」との回答が9.0%と昨冬と比較した現在の実感では4.7ポイント増、「減りそう」は28.1%で、同3.4ポイント改善、ともに収入の改善見通しであることが窺える。

(2) 支出

半年前と比べ、支出を「増やした」との回答割合は18.2%(昨冬17.8%)で0.4ポイントの増、支出抑制からやや解放されている。また、「減らした」についても23.8%(昨冬25.6%)で、昨冬の調査より1.8ポイントも増加し、家計支出は若干伸びている。

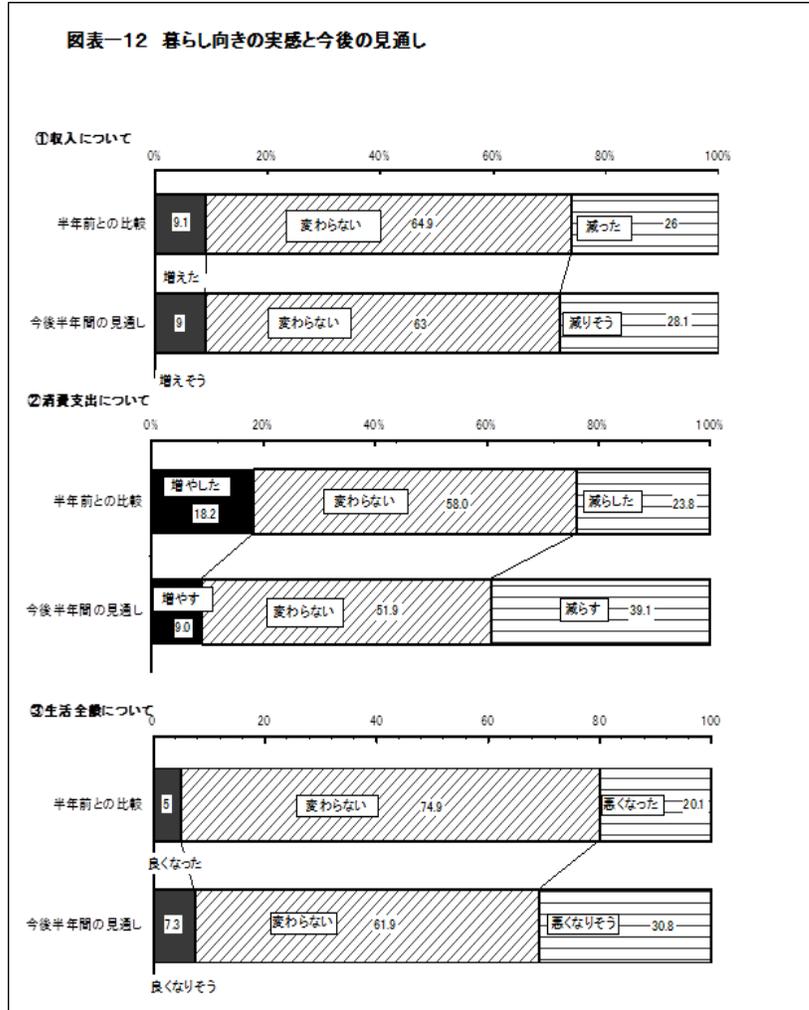
半年後の先行きについては、「増やす」との回答が9.0%と昨冬と比較した現在の実感では0.9ポイント増。また、「減らす」は39.1%で同0.2ポイント増である。今後の家計消費は、やりくりする中で若干伸びそうな気配である。

(3) 生活全般

直近半年間の暮らし向きについては、「生活全般」において昨冬の調査に比べ「良くなった」5.0% (昨冬5.5%)で0.5ポイントと若干低下した。一方「悪くなった」は、20.1% (昨冬22.7%)で2.6ポイント改善し、生活全般の暮らし向きはやや良化している。

半年後の先行きの見通しでは、「良くなりそう」が7.3%で、昨冬と比較した現在の実感は2.9ポイント良化を予想し、「悪くなりそう」が30.8%で昨冬と同率の回答となった。

(高橋 廣)



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	21	56	107	102	286
既婚女性	14	68	99	89	270
独身男性	38	21	9	2	70
独身女性	60	28	18	16	122
計	133	173	233	209	748

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2011年10月12日～14日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	748人
有効回答率	74.8 %

